

# 平成23年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録等から)



(鳩待峠～山ノ鼻間で発生した傷病事故に、消防と連携して救助を行う)

平成23年11月

財団法人 尾瀬保護財団

## 目 次

1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	2
(1)	年別発生状況	2
(2)	地区別発生状況	2
(3)	原因別発生状況	3
(4)	シーズン別発生状況	3
(5)	月別発生状況	4
(6)	年齢別・男女別発生状況	4
(7)	傷病者の居住地別発生状況	5
(8)	グループ人数別発生状況	5
(9)	傷病事故の通報状況	6
3	救助活動	6
(1)	救助隊出動状況	6
(2)	ヘリコプター活用状況	7
4	その他の重大事故（聞き取り）	7

（参考：尾瀬国立公園のAED設置場所）

（参考：尾瀬国立公園の救助体制）

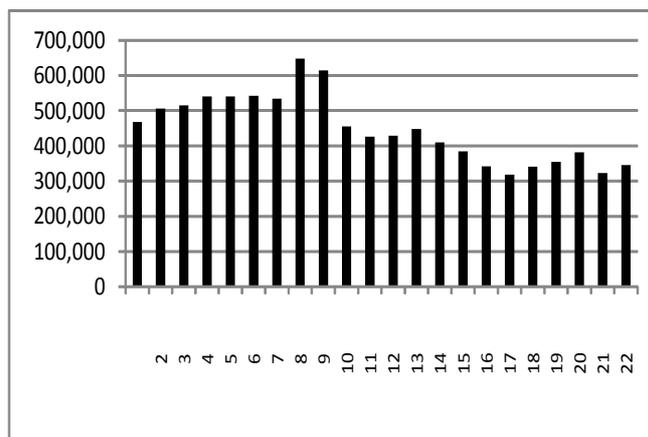
## 1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は道路開通後であり、おおよそ5月の大型連休後から10月末までであるが、同期間に環境省が各登山口に登山者カウンターを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者数は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半で推移し、平成8、9年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬の紹介により60万人台前半に増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系への影響が懸念されたが、平成10年度には景気低迷と週末の悪天候から入山者数は約46万人に減少し、平成14年度まで40万人台で推移し、平成17年度には平成元年からの計測以来最低の約31万8千人となった。

平成20年度以降は尾瀬国立公園の拡張エリアを含めての数値だが、横ばい～微増傾向を示している（平成23年度入山者データは執筆段階で未発表）。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6
平成14年	409,942	91.5
平成15年	384,251	93.7
平成16年	341,558	88.9
平成17年	317,847	93.1
平成18年	341,369	107.4
平成19年	354,901	104.0
平成20年	381,700	107.6
平成21年	322,800	84.6
平成22年	347,000	107.5

(平成22年12月20日現在)



尾瀬の入山者数の推移 (環境省のデータから作成)

## 2 傷病事故の発生状況

### (1) 年別発生状況

平成23年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）、尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）職員が出動した傷病事故は98件で、平成19年度の109件に次いで件数が高かった。

	16	0	0	16	0
	33	2	0	31	0
	49	4	0	45	0
	55	1	0	54	0
	70	2	0	68	0
	46	0	0	46	0
	51	2	0	49	0
	33	1	0	32	0
	46	1	0	45	0
	59	0	0	59	0
	80	3	0	77	0
	109	1	0	94	14
	85	1	0	73	11
	86	1	0	70	15
	71	0	0	58	13
	98	0	4	69	25

### (2) 地区別発生状況

地区別では鳩待峠～山ノ鼻、尾瀬ヶ原、沼山峠～大江湿原の順で多く発生した。例年の傾向と比べ、大江湿原～尾瀬沼北岸の発生件数が減り、一方で沼山峠～大江湿原が増加している。また、鳩待峠～山ノ鼻と尾瀬ヶ原の事故件数は全体の67.3%となり前年度（76.1%）よりは若干減少したものの、依然として高い割合となっている。

						22
VC	41	41.8	3	30	8	31
	25	25.5		20	5	23
VC	5	5.1	1	1	3	8
	2	2.0		2		3
	1	1.0		1		2
	9	9.2		5	4	0
	3	3.1		2	1	0
	3	3.1		2	1	2
	1	1.0			1	0
	1	1.0		1		0
	3	3.1		3		1
	1	1.0		1		0
	1	1.0		1		0
	2	2.0			2	1
	98	100.0	0	4	0	69
						25
						71

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道での転倒・転落による事故が67件と圧倒的に多く、全体の68.4%を占めており、木道整備区間が多い尾瀬国立公園の特徴を示している。原因は雨や霜で滑った、段差やかすがいなどにつまずいた、写真撮影や景色を眺めていて足を踏み外した等様々だが、平坦な道路と違い、ちょっとした気の緩みが大きな事故にもつながりかねない。また、病気などで歩行困難になる事例も少なからず見受けられるが、日常生活での体調管理や、日帰りでの強行軍の行程に原因がある場合も多く、ゆとりをもった行動と装備は不可欠である。

その他の原因としては、虫さされ、休憩ベンチに座っているのトゲ刺さり等となっている。

なお、今シーズン中にビジターセンターに配備された AED を使用した事例は1件あった(7月18日尾瀬沼、蘇生、平成22年度は0件)。

									22
	67				55	8	3	1	53
	6				4	2			3
	4		4						3
	2							2	1
	0								0
	0								0
	0								0
	0								0
	0								0
	18						18		11
	1						1		0
	98	0	4	0	59	10	22	3	71

(4) シーズン別発生状況

今シーズンの入山者数が未発表のため正確ではないが、年々秋山時期の入山者が多くなっていると思われるが、平成23年度はその傾向を反映してか秋山時期の傷病事故が前年比5ポイント増となった。一方、最も事故件数が多いのは例年同様に夏山時期であり、炎天下の行動が原因となって疲労・病気・歩行困難を起こすものと思われる。

									22
(4 5 6)	33		2		17	4	8	2	27
(7 8)	42		2		27	5	8		31
(9 10 11 )	23				15	1	6	1	13
	98	0	4	0	59	10	22	3	71

(5) 月別発生状況

月別では7月の発生件数が29件(29.6%)と最も多く、次いで6月(27.6%)となっている。この2ヶ月間の発生件数は入山者数に比例しているだけでなく、軽装や無理な行程などによる、木道上での転倒・転落による負傷が原因となっていると考えられる。

									22
	0								0
	6				5			1	5
	27		2		12	4	8	1	22
	29		2		16	3	8		21
	13				11	2			10
	4				2		2		6
	19				13	1	4	1	7
	0								0
	98	0	4	0	59	10	22	3	71

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢別では、40歳未満が13.3%、40歳以上が83.7%(不明3.1%)と、中高年の傷病事故割合が圧倒的に高い。特に50代・60代の事故が目立ち、この年代は救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。男女別ではほぼ半数となっている。

	6				1	1	2		4	
20	2								0	51
30	5						1		1	
40	2								0	
50	35				13		5	1	19	408
60	31				7	1	4	1	13	
	14		3		4		1		8	
	3								0	00
	98	0	3	0	25	2	13	2	45	459
		00	31	00	255	20	133	20	459	

										22
			1		1		2			
			1		1		2		82	133
	1		1	1	1		4			85
			1	1			2			
			11	2	2	1	16		429	837
			13	3	2		18			887
			4	1	1		6			
			2		1		3	31	31	28
0	1	0	34	8	9	1	53	54.1	1000	1000
00	1.0	00	34.7	8.2	9.2	1.0	54.1			

(7) 傷病者の居住地別発生状況

平成22年度と同様に、東京都・埼玉県・神奈川県・群馬県を中心とした関東圏が大半を占めている。尾瀬登山者の居住地別割合をそのまま反映した結果と思われるが、近いために気軽な登山と油断してしまうことも原因と考えられ、時間や体力を考慮した計画と事前準備が必要である。

								22	
								0	0
								0	0
								0	0
					1	1		2	1
						1	1	2	2
				3		2		5	4
				10				10	5
		2		5		1		8	11
		1		1	2	1		5	4
				15	4	2		21	13
				8	1	1		10	9
					2			2	1
				1				1	0
							1	1	0
								0	1
						1		1	1
				3		1		4	3
								0	0
		1						1	3
				1		1		2	6
								0	1
								0	1
								0	0
								0	0
								0	1
				1				1	0
				11		10	1	22	4
	0	4	0	59	10	22	3	98	71

(8) グループ人数別発生状況

前年度同様に2人以上の小グループの事故発生割合が50%と高く、搬送を伴う重度な事故も11件と多い。一方、近年減少傾向だった単独行やツアー登山での傷病事故も増加に転じた(単独行+6.7ポイント、ツアー登山+7.9ポイント)。

傷病事故発生時に手当やレスキューを真っ先に行うのは、本人や同行者であることが多く、重度な傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難であることから、単独行は十分な注意が必要である。

またツアー登山においては安易な気持ちでの参加が不意の事故につながる可能性もあり、関係者と旅行会社が連携したより一層の啓発活動が必要だと思われる。

								22		
	19		2		10	1	6	194	9	
	49		1		29	7	9	3	500	41
	27		1		20	2	4		27.6	14
	3						3		31	7
	98	0	4	0	59	10	22	3	1000	71

(9) 傷病事故の通報状況

通報の約7割は、傷病者本人がビジターセンターや山小屋へ来所し、口頭で行っている。携帯電話の通話エリア圏外が大半の尾瀬では、直近の有人施設に駆け込む必要があるため、このような結果となったと思われる。また、尾瀬沼ヒュッテや尾瀬ロッジは、地元村の救助隊現地事務局であるため、ここからビジターセンターへ連絡が入る事もある。

なお、尾瀬沼地区の山小屋やビジターセンターには、救助隊用の簡易無線が配備されているため、近隣の山小屋に駆け込まれた場合でも、迅速に救助活動を開始できるようになっている。

								22
	68	12	10	4		94	95.9	66
						0	0.0	1
				1		1	1.0	0
						0	0.0	0
			1	2		3	3.1	1
						0	0.0	3
	68	12	11	7	0	98	100.0	71
	69.4	12.2	11.2	7.1	0.0	100.0		

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

担架搬送の場合には、ビジターセンター職員は救助隊の臨時隊員としても出動している。傷病対応は複数の機関が協力して活動するため、発生件数よりも出動回数人員が多くなっている。

	2	4	12	0	18	16
	12	20	10	0	42	33
	8	33	16	0	57	49
	9	28	27	0	64	55
	11	18	45	0	74	70
	9	21	22	0	52	46
	9	14	31	0	54	51
	8	10	19	0	37	33
					0	46
	16	12	35	0	63	59
	17	22	77	0	116	80
	10	18	106	2	136	109
	15	12	68	0	95	85
	16	18	86	1	121	86
	21	22	69	0	112	71
	15	15	98	0	128	98

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故98件のうち14件でヘリコプターを依頼し、14人を搬送した。地区別では山ノ鼻地区8件、尾瀬沼地区6件となった(前年度は山ノ鼻4件、尾瀬沼13件)。今後も現場の救助組織と消防・防災ヘリとの連携を強化し、傷病者をより迅速に医療機関に引き渡せるよう体制整備を充実させる必要があると思われる。

	2	1	1	0	0	2
	5	3	1	1	0	5
	3	3	0	0	0	3
	5	5	0	0	0	5
	7	5	1	1	0	7
	6	6	0	0	0	6
	6	4	1	1	0	6
	6	4	1	0	0	5
	7	7	0	0	0	7
	12	8	4	0	0	12
	8	3	3	0	2	8
	11	6	4	0	0	10
	13	10	3	0	0	13
	9	7	2	0	0	9
	17	14	3	0	0	17
	14	10	4	0	0	14
	131	96	28	3	2	129

4 その他

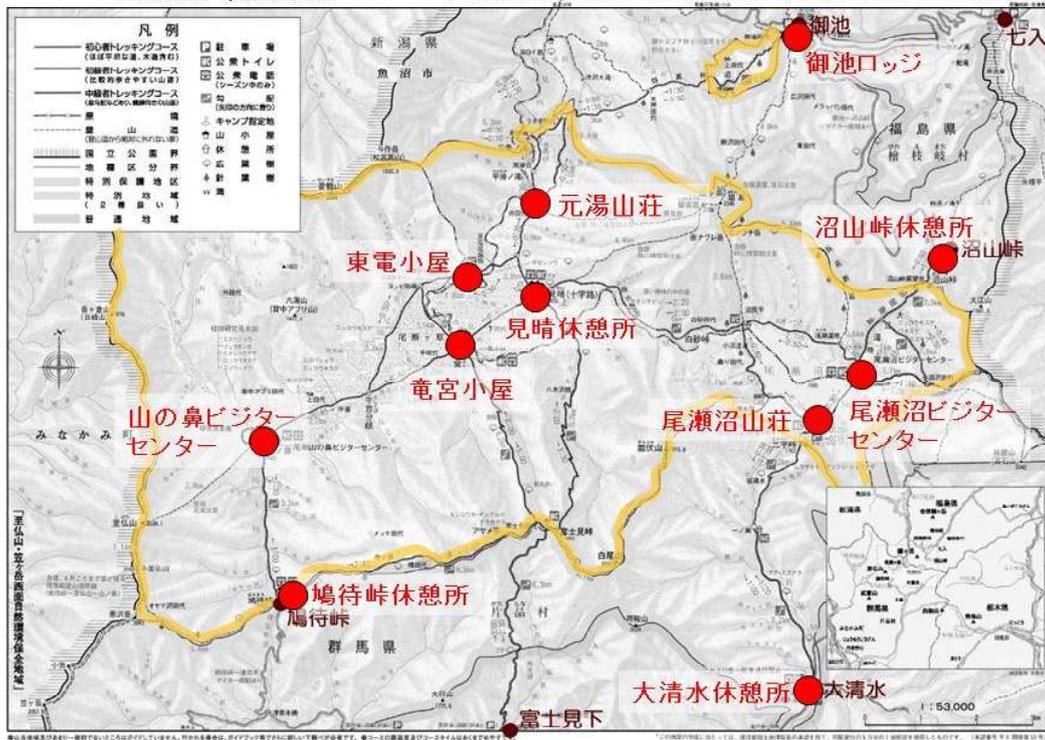
(尾瀬国立公園2例目となるAEDでの蘇生事例)

平成23年7月18日に、尾瀬国立公園で2例目となるAEDを用いた蘇生事例が起こった。対応事例が年々発生する中で、数少ない蘇生事例なため、概要を以下にまとめる事で、今後の参考としたい。

- 発生場所 尾瀬沼地区第2公衆トイレ入口
- 発生状況 当日に次男と2人で沼山峠から入山し、途中で具合が悪くなったがゆっくりと尾瀬沼地区に到着。第2公衆トイレ入口で意識を失い突然倒れた。
- 対応手段 AED、CPR、O2パック (36L×2本)、福島県防災航空隊
- 対応概要
  - 10:55頃 傷病事故発生。通行人がビジターセンター (VC) に通報。職員が現場確認し、AEDを取りに行く。
  - 11:00 偶然、現場に居合わせた医師とVC職員とで協力してAED対応。通電2回。2回目通電後、循環サインあり。意識微弱。消防経由で防災ヘリ要請。
  - 11:15 傷病者意識弱い。医師がO2パック装着。VCレクチャールームへ搬送。
  - 11:20 傷病者意識はっきりと回復。医師とVC職員とが交替で付き添い。
  - 12:20 福島県防災ヘリ着陸。12:30に傷病者収容し会津中央病院へ搬送。
  - 8月17日 傷病者が退院、社会復帰。

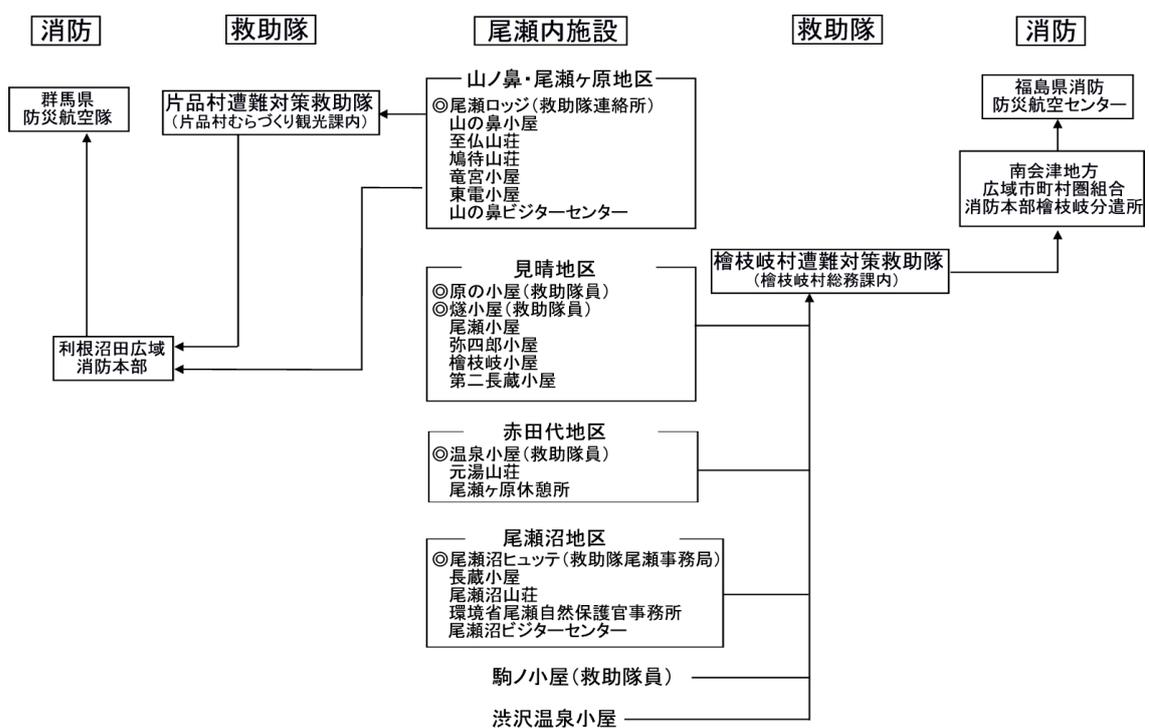
(参考：尾瀬国立公園のAED設置場所)

- 奥只見周辺：深雪の里、魚沼市役所湯之谷庁舎、白銀の湯、深雪の里など
- 小沢平 ● 湯ノ花周辺：館岩会館、養禪診療所など
- 檜枝岐村内：駒の小屋、檜枝岐診療所、東雲館、アルザ尾瀬の郷など



- 戸倉：尾瀬高原ホテル、ぶらり館、片品村中央公民館など

(参考：尾瀬国立公園の救助体制)



◎:各地区で現在、救助時に事務局機能を持っている施設